

令和7年度 学校評価 丹波市立上久下小学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	<ul style="list-style-type: none"> 自ら考えて行動する主体性を持ち、たがいのよさを認め合いながら、人とつながり、協働できる児童を育成する。 学校・家庭・地域社会の連携と協働を深め、それぞれの教育力を活かし、特色ある学校づくりを進める。
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考え、自分で判断して行動しようとする姿勢・態度の育成 人とつながり、聞き合おうとする関係づくりを基盤としたコミュニケーション能力の育成 ふるさとの歴史や文化についての学びを通じた地域への誇りと愛着の醸成 学校運営協議会の活性化によるコミュニティスクールの取組の一層の充実

2 自己評価(達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	生活指導	好ましい人間関係と豊かな集団生活が営まれる学級・学校づくりの推進	B	挨拶や言葉遣いをはじめとしたコミュニケーションの指導や、きめ細かい観察力で児童の様子を見取することを大切にしている。一人ひとりの児童が安心して学校生活を送れるように児童同士、教職員と児童の適切な人間関係を築けるよう、個々の特性や発達段階に応じた指導を行っている。
	開かれた学校づくり	学校・家庭・地域、双方向の情報交流の推進	A	総合的な学習の時間や生活科の学習を中心に、地域の方にゲストティーチャーになっていただくなどの協力を得た教育活動を進めることができている。学校からは、これからもホームページや学校だよりなどを通じて情報発信を継続し、開かれた学校づくりを推進していく。
	危機管理体制の整備	安全・防災教育の充実と教員の実践的な研修・訓練	A	さまざまな想定での避難訓練を実施した。火災の避難訓練では、消火栓のホースでの放水訓練を行い、職員全体で放水の仕方を再確認できた。安全に登下校ができるよう、今後も今行っている地区別の集会や下校指導を継続していく。
教育課程	教育課程編成	学校教育目標達成に向けた特色ある教育課程編成	B	小規模校ならではの、2学年合同の学習においては、課題に対する見方や考え方が単学年での学習よりも多様になっている。今後も、学校教育目標達成に向けて、よりよい学習スタイルをはじめとする教育課程の編成に努めていく。
	学習指導	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の徹底	B	校内研修では、全学年で「聞き合う関係」を築くための授業づくりの研修を進めた。今後も児童が「知りたい」「学びたい」と意欲を持ち、「分かった」「できた」「伝えたい」と思える授業づくりに取り組み、児童の学ぶ力を高めていく。
課題教育	人権教育	発達段階に応じた仲間づくり	A	児童会行事や学校行事、そうじなどのたてわり班活動を通して、高学年は低学年を思いやる心を持ち、低学年は高学年のリーダーとしての姿を見てきた。今後もさまざまな人権課題がある社会を生き抜くために必要な学習に取り組み、児童の人権感覚を高めていく。
	情報教育	児童に対する情報教育の充実と教員の実践的な研修・訓練	B	2学期より新しいタブレット端末が導入され、タブレット端末の使用についてのルールを再確認した。情報収集や発信するためのツールとしてはもちろん、個別最適な学習のために児童が進んで活用できるように取り組むとともに、情報モラルについても適切に指導していく。
	特別支援教育	一人ひとりの見取りをもとにした、個に応じた支援の推進	A	運動会などの行事前には、一人ひとりの頑張りを認め合えるように啓発に努めた。また、学習や生活に支援を要する児童に寄り添った支援を行えるように、校内委員会では児童の様子について定期的に交流し、支援員の配置などを考えた。今後も引き続き、個に応じた支援を進める。

3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> 学校運営について、概ね良好で、学習指導や生活指導において、先生方の熱心な取り組みが感じられる。前年度の評価より総じて達成状況が改善されていると判断できる。 挨拶について、する側とされる側に若干の差があり、家庭・地域との連携をさらに深め、明るく挨拶ができるコミュニケーション力の豊かな人になってほしい。 丹波竜・楡皮草などのふるさと学習をこれからも継続して頂きたい。 安全な通学路、通学方法の確保のため、地域・保護者と連携して関係機関へ要望していくべきである。 上久下小学校の今後について、早急な対応を始めるべきであると感じた。 聞き合う関係を築くための授業はとて良いと思う。児童が楽しく学び、思考力を養うとともに、基礎学力の向上を図る取り組みを丁寧に行っていただきたい。 少人数でたての繋がりも強いが、思いやりのある言葉遣い、場に応じた言葉遣いなど、適切に指導いただきたい。 情報モラルに注意しつつ、さらにタブレットを活用した家庭での学習形態を工夫すると、保護者への理解も深まると考える。

4 次年度の改善の方向性

<ul style="list-style-type: none"> 明るく元気な挨拶を大切に、思いやりのある言葉遣い、場に応じた言葉遣いができるように取組を継続する。 自分も相手も大切にできる、互いを尊重し高め合える関係づくりをさらに進める。 学ぶ楽しさを大切に、友だちとのつながりを通して思考力を育むとともに、読み書き計算の基礎学力の向上に向け、これまで以上に丁寧に指導していく。 上久下の教育資源を生かし、ふるさとを大切に、人とのつながりを大切に、心をさらに高める。 児童のタブレット活用のスキルや学習状況を学校と家庭で共有できるよう、タブレットの有効活用を工夫する。
--

令和8年 3月 2日
丹波市立上久下小学校
校長 大木 修